
雲と共に...

雪空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雲と共に…

【Nコード】

N9537C

【作者名】

雪空

【あらすじ】

少しずつ変化していく関係…それはまるで雲の様に

（前書き）

幼馴染みのお話。

初めて書いたのでまだまだですが読んでいただけると嬉しいです。

「花ー！！」

聞きなれた声が私を呼んだ。なんか超笑顔なんだけど…嫌な予感がある…

私、浅井 花^{あや}。高校2年生。呼びながら走ってきたコイツは相原 泉^{いずみ}。同じく高校2年生。

もう10年以上の付き合いになる。言わば幼馴染みだ。名前順で並ぶと常に隣。家も近くて小さい頃から兄弟の様に毎日遊んだ。時が経つにつれてそんな関係で満足出来なくなってきた私がいた。

いつからだろう。私が泉を好きになったのは…

「花、聞いてくれよ。俺如月さんに告られちゃってさあ」

嫌な予感的中。如月さん…隣のクラスの美人さんだ。女のコの私でもホレちゃうぐらい。

「ふーん、よかったじゃん。付き合っちゃえば？ってか相変わらずモテるねえ。」素直じゃない…私のバカ（凹）

「だろー、俺モテるしさあ（笑）如月さん美人だし お前は一度も告られたことすらないもんな。」

「どうせ、私はモテませんー。」

私はプイッと顔を反らした。そう、泉はモテる。背も高いし、カッコいいし…

「そうだろ、そうだろ。」

うん、うんと頷きながら泉は言う。
ズキッ

私の中で鈍い音がした。私は如月さんみたいに美人じゃないし…そんなコト言われなくても分かってるよ。
でも泉には言われなくなかった…そんなこと…

「だって花の可愛さは俺だけが知ってればいいんだからさ」

私の頬に泉の手が触れた

風が吹いた

止まっていた雲が流れてゆく…

私たちの関係も……動きだした

（後書き）

ベタでしたかね（笑）

感想、改善点などがありましたらよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9537c/>

雲と共に...

2010年12月4日22時51分発行